



みんなで創る ふるさと わづか未来プラン

和東町第4次総合計画【後期基本計画】

概要版



平成 28 年 3 月
和 東 町

はじめに

1. 総合計画の趣旨と位置づけ

「和束町第4次総合計画」は、和束町が進める施策及び個別計画の上位計画に位置する計画です。住民と行政が協働によって進めるまちづくりのビジョンであり、基本的指針である本計画は、まちづくりの最上位計画と位置づけられます。

本計画ではそのめざすべき将来目標像を「ずっと暮らしたい 活力と交流の茶源郷 和束」とし、その実現のための具体的な取り組みとして6つの協働プログラムを掲げています。

和束を担う次世代の人づくり協働プログラム

住民が支えあう安心と信頼の協働プログラム

安全で快適な暮らしを実感できる協働プログラム

自然を守りともに暮らす協働プログラム

和束のブランドを高める協働プログラム

住民・事業者・行政がともに進める協働プログラム

2. 計画の構成と計画期間

「和束町第4次総合計画」は「基本構想」と「基本計画」で構成されており、それぞれの計画期間は次の通りとなっています。

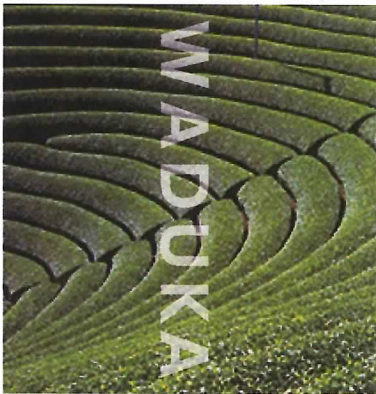
基本構想

和束町がめざす将来像と、その実現に向けた施策の基本方針等を明らかにするもの。



基本計画

基本構想の施策の基本方針を踏まえた具体的施策を定めるもの。



3. まちづくりの基本方針

社会情勢や和束町の状況及び住民のニーズを踏まえ、今後5年間のまちづくりにおいて、住民と行政が共有する基本方針を、次の通り掲げます。

活発な交流で活力を育てるまちづくり

道路交通と情報ネットワークを強化し、通勤・通学等の日常生活が快適で便利なまちをめざします。また、まちの経済や文化における交流を活発にし、活力あるまちづくりを進めるとともに、住民同士が地域や世代を超えて交流する、協働のまちづくりを進めます。

安全で安心できるまちづくり

子どもから高齢者まで、誰もが安全・安心に暮らすことのできる地域を行政と住民が一体となって築くことをめざし、保健・医療・福祉の充実と防災等の安全管理に努めます。また、身近でお互いに支え合いながらともに暮らす、あたたかい地域づくりを進めます。

豊かな自然と文化を守るまちづくり

豊かな自然や茶畑に代表されるふるさとの風景、長い歴史と文化は私たちの誇りです。これらを大切に守りながら、日々の暮らしや地域作り、まちの振興に活用することで、より魅力ある茶源郷和束を創造し、未来へと継承していきます。

将来像

ずっと暮らしたい
活力と交流の茶源郷
和束

人口の現状

人口の減少が全国的な課題として取り組まれています。和束町においても人口は減少傾向にあり、平成17年度で4,998人でしたが平成22年度には4,482人となっています*。人口推計によると、本構想の目標年次である平成32年度には、総人口は3,794人となると見込まれています。

また、年齢3区分別の構成比においても、今後少子高齢化がいつそう進み、平成32年度には年少人口（0～14歳）は7.9%に、生産人口（15～64歳）は47.7%とともに減少し、老年人口（65歳以上）は44.4%に増加すると見込まれています。

総人口の推移（現状推移型の推計）



※国勢調査より

基本

構想



4. 将来人口

まちの活力を維持するためには、特にニーズの高い道路交通の整備や若者向け住宅環境の整備等によって、定住人口の減少傾向を抑制し、人口の定着を促進しなくてはなりません。

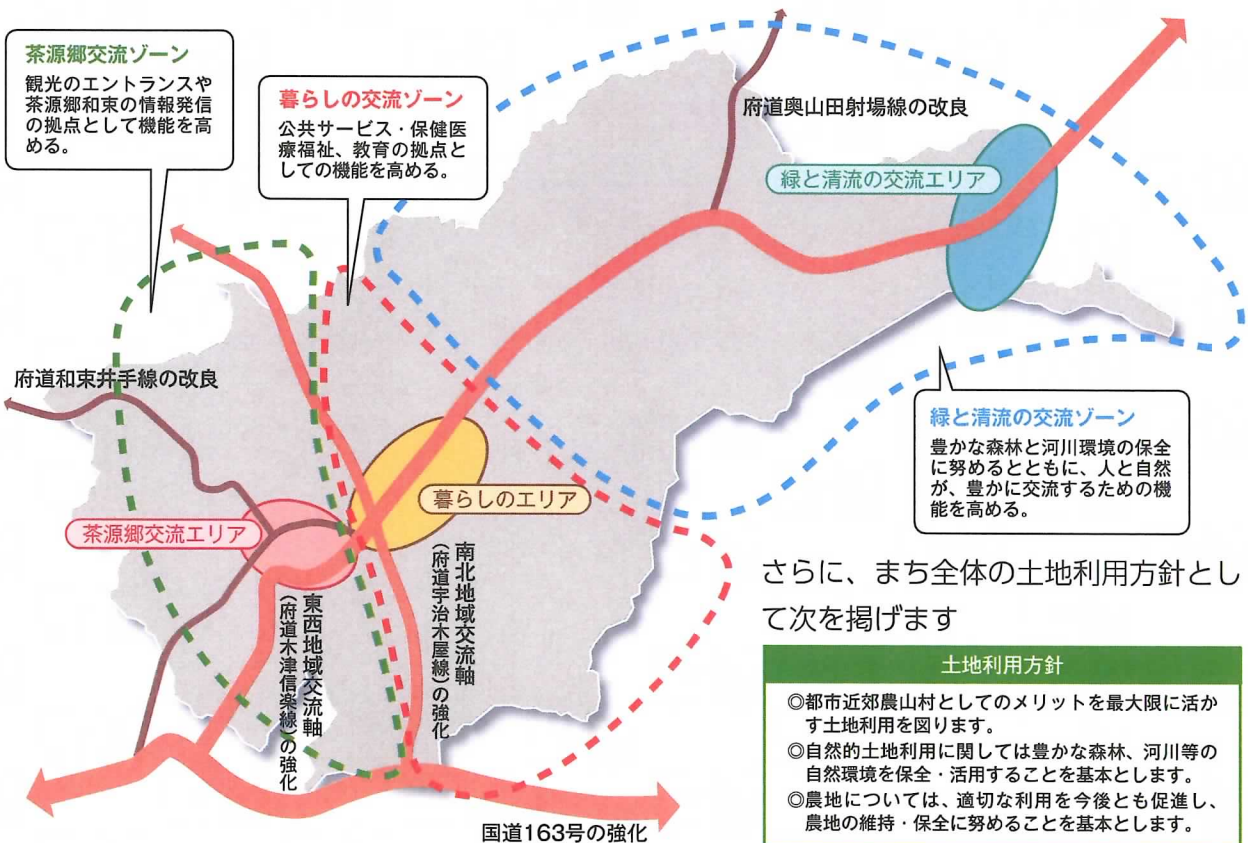
また、定住人口のみならず、観光・レクリエーションなどを目的に和束町を訪れる交流人口によってもまちの活力は高まります。近年、日本で最も美しい村連合への加盟や和束茶の知名度向上等により和束町を訪れる人は増え、平成26年度の観光入込客数は75,571人と京都市を除く京都府の市町村の中で最も高い伸び率を示しています。平成27年度には「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産にも認定されており、今後茶源郷和束のPRや各企業・団体・大学等との連携等を積極的に図ることで、さらに交流人口を増やすまちづくりを進めます。

以上から、本基本構想においては平成32年度における将来人口を4,300人、交流人口を25万人とします。



5. 将来の地域構造

5年後のまちの地域構造及びそれを実現するための整備方針として、3つのゾーンと3つのエリアを設定します。また、まちの交流を促す交流軸を設定し、その強化を図ります。



後期基本計画

和束町第4次総合計画では住民と行政がともに取り組める6つの協働プログラムを展開します。

1

和束を担う次世代の人づくり協働プログラム

- ◇子育て支援
- ◇学校教育
- ◇社会教育・スポーツ
- ◇交流
- ◇歴史文化



ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる茶源郷和束を担う次世代の「人づくり」のため、子育てへの支援や教育環境の整備とともに、茶源郷の歴史文化を伝え、まちづくりに活かす協働プログラムを展開します。

施策の例

育児サポートの充実・拡大（出前保育）、異文化とのふれあい事業、農村体験と婚活の場づくりへの支援、町の歴史を学習する機会の設置・ガイドボランティア等育成 など

数値目標（平成32年度）

- 小中学校における ICT 環境の充実 ⇒ **100%**
- 出生数 ⇒ **24**人（平成26年度は17人）など

2

住民が支えあう安心と信頼の協働プログラム

- ◇人権尊重
- ◇保健・医療
- ◇高齢者・障がい者支援
- ◇地域福祉
- ◇地域安全



高齢者や障がい者が安心して暮らし、社会参加できる思いやりのある福祉のまちづくりを進め、住民が互いに支えあいながら暮らす協働プログラムを展開します。

施策の例

男女共同参画の啓発、買い物等の生活支援、身近な拠点（多世代交流・多機能型）の整備、犯罪被害者や家族のための相談窓口整備等支援 など

数値目標（平成32年度）

- 審議会等への女性の登用 ⇒ **40%**
- 子ども見守り隊活動を実施する地区数 ⇒ **15**地区 など

3

安全で快適な暮らしを
実感できる協働プログラム

- ◇情報
- ◇道路
- ◇公共交通
- ◇住宅
- ◇公園・緑地



便利で快適な暮らしのための道路・交通環境、居住環境の整備を進め、若者から高齢者までの定住促進のための協働プログラムを展開します。

施策の例

茶源郷行政情報配信システムの活用・充実、町道整備、橋梁の点検・整備、公共交通の充実、空き家の活用と移住者のマッチング支援 など

数値目標 (平成32年度)

- 茶源郷行政情報配信システム利用者登録 ⇒ **500**人
- 計画期間中に建て替える町営住宅の戸数 ⇒ **6**戸 など

4

自然を守りともに暮らす
協働プログラム

- ◇防災
- ◇河川環境
- ◇上下水道
- ◇森林保全
- ◇治山・治水
- ◇環境・資源循環・エネルギー



地震や水害等から住民の生命や財産を守るための防災対策をはじめ、茶畑等の景観資源を守るとともに森林の保存を進め、資源循環と自然を守るための協働プログラムを展開します。

施策の例

自主防災組織の創設（地域防災リーダーの養成）、河川美化運動の展開、下水道整備の推進、森林ボランティアの育成 など

数値目標 (平成32年度)

- 防災行政無線整備 ⇒ **100**%
- 森林ボランティアの育成 ⇒ **60**人 など

5

和東のブランドを高める
協働プログラム

- ◇農林業
- ◇商工業
- ◇交流産業
- ◇新たな産業の創出



茶の産地である和東のブランドをさらに広め、品質を高めるための取組や観光振興等産業が一体となったものづくりと交流をめざす産業振興のための行動プログラムを展開します。

施策の例

援農者支援と移住・定住促進事業、地場製品を活かした商品開発、和東ファンの会員組織づくり、シルバー人材の育成・支援 など

数値目標 (平成32年度)

- 和東ブランドの開発件数 ⇒ **25** 件
- 農業体験者数 ⇒ **400** 人 など

6

住民・事業者・行政が
ともに進める協働プログラム

- ◇住民参画のまちづくり
- ◇情報公開
- ◇行財政・地域経営
- ◇広域行政



「みんなで創る ふるさと わづか未来プラン」を進めるために住民、事業者、団体等、多様な住民がまちづくりに参加できるよう、共通の目標のもとに、それぞれの立場で取り組める行動プログラムを展開します。

施策の例

和東町交流定住サポート事業、職員の研修や学習の機会の充実、相楽東部広域連合による広域行政の推進 など

数値目標 (平成32年度)

- 和東町ホームページアクセス ⇒ **350,00** 件
- 実質公債費比率 ⇒ **18** %



和束町長

堀 忠雄

「ずっと暮らしたい 活力と交流の茶源郷 和束をめざして」

平成 22 年度に策定しました「和束町第 4 次総合計画・前期基本計画」は、平成 27 年度をもってその計画期間は満了となり、平成 28 年度からは、引き続き後期基本計画がスタートします。

基本構想、前期基本計画では本町の将来像を「ずっと暮らしたい 活力と交流の茶源郷 和束」とし、まちづくりの指針として、恵まれた豊かな自然と景観を未来にわたって守り、安心・安全で幸せなふるさと茶源郷和束をめざして住民の皆様と協働した取組を進めてまいりました。

その間、京都府では本町の茶畑景観を含めた府南部の宇治茶の産地を「お茶の京都」として、更に文化庁からは同地域を「日本遺産」として認定を頂くなど、今後の「世界遺産」認定に向けて大きく前進した年でもありました。

また、これら一連の取り組みには、今回の「地方創生」に見られる一部広域性の重視と相俟って、今後の京都府南部での広域連携について部分的ではありますが一定の方向を伺い知ることができます。

そうしたもと、平成 28 年度は和束町第 4 次総合計画・後期基本計画の初年度にあたり、ここに改めて、これまで住民のみなさまと協働して進めてきた地域再生法による“茶源郷としてのまちづくり”や今回、国において新たに示された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた本町の地方創生総合戦略との整合も図りながら、本後期基本計画を推進していくこととし、これまでの前期計画に引き続いて本町が目指してきた「ずっと暮らしたい 活力と交流の茶源郷 和束」の一層の推進と、その実現に向けての決意を新たにしています。

住民の皆様におかれましては、住民と行政の協働によるまちづくりへの一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

和束町第4次総合計画【後期基本計画】概要版

発行／和束町 総務課 平成 28 年 3 月

〒619-1295 京都府相楽郡和束町大字釜塚小字生水 14 番地の 2

電話(0774)78-3001(代) FAX(0774)78-2799

URL <http://www.town.waduka.lg.jp>